

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	中国人元日本留学生の定着・帰国の選択と影響要因に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	トウセキカ
Author(English)	Sekika Tou
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10603号, 授与年月日:2017年6月30日, 学位の種別:課程博士, 審査員:佐藤 由利子,村山 武彦,吉川 邦夫,木内 豪,錦澤 滋雄,白土 悟
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10603号, Conferred date:2017/6/30, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第		号	学位申請者氏名		寶 碩 華	
論文審査 審 査 員		氏 名	職 名		氏 名	職 名	
	主査	佐藤 由利子	准教授	審査員	白土 悟	准教授 (九州大学)	
	審査員	吉川 邦夫	教授		錦澤 滋雄	准教授	
		村山 武彦	教授				
		木内 豪	教授				

論文審査の要旨（2000 字程度）

本論文は「中国人元日本留学生の定着・帰国の選択と影響要因に関する研究」と題し、全 6 章からなる。

第 1 章「研究の背景と目的」では、日本政府による就職支援策にもかかわらず、帰国就職や日本で一定期間就労後母国へ転職する中国人留学生が多いという点に着目し、中国人留学生の定着・帰国の選択に影響を与える要因を明らかにし、日本定着促進に向けた示唆を得るという本研究の目的が述べられている。

第 2 章「研究の枠組み」では、プッシュ・プル理論に基づき、中国人元留学生の卒業時の就職先選定理由、転職・帰国理由、職場環境の評価、生活環境の満足度、将来計画について、他国出身元留学生との比較を行い、さらに日本と中国の主な職場別、理工系・文系別の比較分析を通じて、中国人元留学生の進路選択の特徴と影響要因を明らかにするという本研究の枠組みが示されている。

第 3 章「日本で学んだ留学生の進路状況」では、日本における留学生就職支援政策と留学生の就職状況、中国の海外留学人材誘致政策と留学からの帰国者の進路状況が概観されている。日本で就職した留学生のうち、中国人留学生の就職者の割合は、他国留学生よりも高いこと、在留資格別では「人文知識・国際業務」の在留資格者の割合が高く、「技術」の在留資格者の割合が低いことが示されている。また、中国の海外留学人材誘致政策では、理工系の研究者、技術者を中心として帰国を促しており、日本からの帰国者は博士号を取得した者が相対的に多いことが明らかにされている。

第 4 章「他国と比較した中国人元留学生の進路選択の特徴と理由に関する分析」では、日本で就職した元留学生 339 名の質問紙調査の回答を、中国人元留学生と台湾・他国出身者間で比較・分析している。さらに中国人元留学生と企業関係者への聞き取り調査によって、中国人元留学生の進路選択の特徴と理由が分析されている。その結果、中国人元留学生は台湾・他国出身者より、就職先を選ぶ際に将来母国で働けることなどの「母国」要因を重視し、日本企業に勤務する中国人元留学生は、外国人としての配慮を受けることが少ないと感じる者、昇進に時間がかかると感じる者が多く、将来計画においてより強い帰国希望を持っていることが明らかにされている。また、職場環境と職場適正の回帰分析から、中国人元留学生は、台湾・他国出身者より、要求水準の高い仕事や責任範囲の曖昧な仕事にも前向きな姿勢が見られ、日本企業への適応性が高いと考

えられることが示されている。

第5章「中国人元留学生の定着・帰国選択の特徴と影響要因に関する分析」では、日本と中国で就職した中国人元留学生 322 名の質問紙調査回答と、日本と中国で行った元留学生と企業関係者への聞き取り調査に基づき、中国人元留学生の就職先選定理由、転職・帰国理由、職場環境の評価、生活環境の満足度、将来計画を、主な職場別、理工系・文系別に比較し、進路選択の特徴と影響要因がグループ別に分析されている。その結果、「キャリア形成/能力向上」が、理工系でも文系でも、中国人元留学生が就職した国に関わらず、最も重視した要因の1つであり、理工系の者が日本で転職する時に最も重視した要因となっていることが明らかにされている。また、「能力・専門の活用」と「昇進の見通し」は、中国で就職した者が重視する要因であること、将来帰国を希望する理由として、親の面倒や中国での仕事の将来性、専門性の活用、子供の教育が上位に挙げられることが示されている。また、日本企業勤務者は「昇進の遅さ」と「やりたい仕事と実際の業務の不一致」に不満を持ち、日本の教育・研究機関勤務者も、職場の総合満足度は高いが、昇進に不満を持つ傾向があることが明らかにされている。

第6章「結論」では、上記の分析結果を総括し、中国人元留学生の日本定着を促進するためには、能力向上の機会、中国関係の仕事に就く機会、外国人としての配慮を受ける機会を増加させ、日本企業における昇進システムやジェネラリスト養成の利点に関する説明が必要であるという示唆が導かれている。

以上要するに、本研究は、中国人元留学生の定着・帰国の選択と影響要因について実証的に明らかにしたもので、留学生政策、高度人材獲得政策に大きく資するものであり、教育社会学分野における学術的な貢献も大きい。よって、博士（学術）に値するものと認められる。